

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200786		
法人名	社会福祉法人赤磐中央福祉会		
事業所名	グループホームあかいわ		
所在地	岡山県赤磐市日古木33-3		
自己評価作成日	平成23年12月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『安心の毎日を、心豊かな暮らしを』を基本理念として、『安心、快適、自立意欲』に着目したケアの実現を目指している。1『安心』の確保には、日常の健康管理や緊急時の対応が速やかに出来るよう、スタッフ・管理者・医療機関との連携を密にしている。2『快適な生活』の実現には、笑顔で集う共有空間として、くつろぎのリビングなど、家庭的な雰囲気を作り、寄り添う時間を多くとり、一人ひとりのペースに合わせて優しい声のトーンで話し、利用者との目線を合わせて、ゆっくりと穏やかに話を聞く等、個々に配慮したケアを心がけている。3『自立意欲』の喚起には、利用者の能力や経験が最大限に生かせるように、「気付きシート」を備え、利用者との会話や見守りの中で、本人の能力や適正など、気付いた事を職員間で話し合い、本人の能力開発に繋げている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372200786&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成24年1月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「大規模な医療保健福祉グループの一員として、地域のニーズや社会情勢、地域に貢献したい」という思いで、9年前に開設したグループホームである。室内には、職員の元気な声かけと笑い声が響き、利用者は明るい雰囲気の中で、落ち着いた生活を送っている。日々のレクリエーションも、職員の得意分野を活かした、種類豊富な内容である。利用者の介護計画には、職員のきめ細かな観察と記録が盛り込まれ、日々のケアに活かされている。ヒヤリハットの報告基準を厳しめに設定し、事故防止対策に取り組んでいる。また、夜間想定避難訓練を経験しない限り、夜勤を担当させないなど、防災にも高い意識を持つ。ケアハウスとの共有の敷地には、桜をはじめ、様々な花の咲く庭があり、利用者に四季を告げるとともに、憩いの場を提供している。法人グループ内の病院との連携が強く、日ごろの健康管理から緊急時対応まで、安心して委ねられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に繋がっている	『安心の毎日を、心豊かな暮らしを』を、基本理念として、職員全員で話し合いながら確認し、生活の継続支援と地域との関係性を重視したケアを図っている	法人の理念をまとめたものを事業所の基本理念とし、家庭的な雰囲気大切に運営している。ただ理念が漠然としているので、4月には目標の設定を計画している。	今後は、計画中の目標設定に加え、目標の達成状況について、定期的に進捗管理を行うよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の夏祭りに近隣者の参加があり、近隣の幼稚園児との交流や地区の秋祭りで子供との交流があり、フラダンス・マジック等のボランティアの方々にも来ていただいており、広報誌の配布もして頂き、地域住民の方とふれあう機会がある	法人で開催した夏祭りや、地域の秋祭りなど、互いに参加し合い、行事を通じた交流がある。事業所はフラダンスなど、地域ボランティアの発表の場としても活用されている。また、市内の介護事業所の管理者が集う会に参加し、日ごろの疑問や悩みを交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、ヘルパー2級過程の実習生の受け入れを積極的に行なっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス提供状況やヒヤリハット・事故等について報告し、現在取り組んでいる事等について報告し、意見を頂いている。又、地域との連携についての助言も頂いている	会議では事業所の状況や取り組みに加えて、ヒヤリハットや事故報告も行い、参加者から意見を聞いている。地区の住民代表から、地元の行事や工事の案内などもある。そうした情報交換により、行事日程が重ならないように調整できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、利用者の日常の様子を報告し、必要な助言をもらうなどして連携を深めている。又、市の助成制度等について、助言を頂いている	管理者が元保健師で、事業所立ち上げ時から市の関連部署と関係があったことから、つながりが強く、互いに信頼し合っている。運営推進会議への参加のほか、助成制度の相談や、市からも介護事業の相談をされるなど多岐に渡ってやりとりがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して職員の共通認識を図っている。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さり気なく声をかけたり、一緒について行く等、安全面に配慮して、出切る限り自由な暮らしを支援している	職員会議で、身体拘束をしないケアについて話し合う機会を作り、意識を高めている。今後は「座っただけ」など、利用者に行動を指示する言葉も拘束であると明確に定義し、防止に努め、今以上に利用者の意志を尊重した環境をつくりたいと考えている。	「だめ」「待って」など、つい使いがちな、利用者の行動を遮る言葉を、全職員が拘束であると認識する意識形成を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての資料を配布し、又勉強会で職員への理解を促し、遵守に向けた取り組みを行なっている		

グループホームあかいわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見制度について勉強会で説明しているが、成年後見が必要なケースは現在のところは発生していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や、予測されるリスク、重度化や看取り介護についての家族の希望と事業所の対応方針、医療連携体制の実際などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や、家族会及びアンケートなどで要望を伺い、出された意見については職場会議で話し合い、業務に反映するように心がけている	家族からは、面会時や家族会、事業所独自のアンケートで、意見や要望を聞いている。面会簿には、意見や要望を書く欄を設けている。昨年目標達成計画を受け、行事案内を事業所通信に掲載し、家族への参加を呼びかけた。	一部の家族に、日ごろの状況や取り組みが十分認識されていないため、できるだけ多くの写真や手紙で実践内容を伝え、意見、要望を広く収集して、隠れた不満や要望の解消、解決につなげてほしい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や主任が、職場会議や個別面談で職員の意見や要望を聞き、それが反映されるように心がけている。また必要に応じて理事長に具申している	職員会議では、提案や「気づきシート」の内容をもとに話し合っており、日々の取り組みに反映している。管理者や主任は日ごろから職員が相談しやすい雰囲気を作っている。さらに、年2回の施設長面談で、時間をかけて職員の思いや悩みを聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように、年2回の人事考課を行なって評価している。日頃から『気づきシート』の記入を促し、都度都度に、改善に向けて話し合いを行なっている。また職員の疲労やストレスについて気を配るようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月定例の事業所研修の参加を促し、また社会福祉協議会などの外部研修に多くの職員が参加できるように配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム協議会に加入し、研修等を通して、サービスの質の向上を目指している。又、『赤磐市グループホームつながる会』に参加し、定期的に情報交換等を行なっている		

グループホームあかいわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談等で、今までの生活状態の把握に努め、本人や家族の要望や、不安を理解するように話し合いをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過、経緯について出来るだけ詳しく伺い(バックグラウンドの聞き取り)、これからのサービスに繋げている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の想い、本人の状態等を確認し、残存機能を生かしたより良い方向が見出せるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の想いや苦しみや悲しみ、不安、喜び等を暮らしの中で共有し、一人ひとりが得意としている事をして頂き、利用者と職員が協働しながら生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便り等で、日々の生活状況を報告し、家族に無理のない範囲で協力をあおいでいる。又面会時には、意見・要望を伺うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の行きつけの美容室に行ったり、敷地内のデイサービスに、散歩の途中に立ち寄りしたりしている。又、以前近隣に住まわれていた方の面会もある	面会に訪れるのは家族がほとんどで、時折、地元の友人も来る。家族の訪問が増えるように、帰宅の際にはお礼と共に再来を促す言葉をかけている。また、隣接するケアハウスの馴染みの人に会いに行くなど、これまでの関係の継続を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者間の潤滑油となり、利用者同士と一緒に良き仲間として生活していけるように支援している		

グループホームあかいわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までのホームでの暮らしぶりや、支援内容等を情報提供して連携に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情から、本人の想いをくみ取り把握に努めている。また、本人・家族から希望をその都度伺いするようにしている	言葉や表情から、利用者の思いや意向の把握、実現に努めている。特に苦痛やくもった表情に注意している。さらに職員は、自らの得意分野を活かしたレクリエーションを取り入れ、利用者の個性や考え方を捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のバックグラウンドを知ることで、その人への理解に繋げるように心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の発言や動作から感じ取り、『出来ないことより、出来る事』に注目し、その人全体の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族に要望や意見を伺うことはもちろん、職員も『気付きシート』で意見を出し合い、話し合っている	利用者や家族の意向は「今のままで」になりがちである。そこで職員が「出来ること・出来ないことシート」や「気付きシート」に、利用者の詳細な情報を記録し、ケアに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過観察表やさわやかチェック表の記録により、全ての職員が利用者の状況確認出来る様にしており、勤務開始時の確認は義務付けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院等、必要な支援は柔軟に対応している		

グループホームあかいわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域の代表者の参加をお願いしていることで、周辺情報や情報交換、協力関係を築いている。又、地域ボランティアの来所があり交流している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のグループ医により、利用者の急な変化にも早急に対応出来るようになっている	協力医による往診や急変時の対応ができることなどから、利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。耳鼻科など専門医の受診は、基本的に家族が送迎し、職員が家族から受診結果を聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた対応が出来る様になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による機能低下を防ぐため医師と話し合い、事業所内で対応可能な段階で早期退院できるようアプローチしている。入院中にも必要に応じて援助を行い、家族の負担を軽減している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化に応じて家族と話し合い、その都度、『看取り同意書』で意思確認を行なっている。又、事業所が対応出来る内容についても、その都度説明をしている	重度化した場合に、事業所のできる最大限のケアについて、状態の変化があるたびに説明し、終末期の方針を利用者と家族に確認している。最低でも1年に1度は意思の変化を確認し、カンファレンス記録に残すことで互いの意識を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力により、救急法や蘇生法の研修を行い、緊急時対応についてはマニュアルを整備し、事務所内にも貼り付け、職員が早急に対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画により、年に3回(夜間含む)時間を計って、避難訓練を行なっている。又、消防署主催の消防訓練大会に出場し、実際に消火器を使っての消火訓練もしている	新しい職員が入ったときも含め、年3回以上は避難訓練を行っている。新人が夜勤に就く際は、夜間訓練参加を要件とし、訓練時に既定の行動ができるか確認する。居室の家具を低いものに限定したり、食料を備蓄するなど、防災には高い意識を持っている。	

グループホームあかいわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重した声かけや雰囲気作りをし、不安を取り除けるよう、寄り添って話を聴くよう常に心掛けている	利用者を年長者と意識し、言葉遣いや声の音量に気をつけた声かけをしている。新人研修時にプライバシー保護を徹底し、以降の研修計画にも盛り込んでいる。関連する新聞記事などをファイル化して、職員に閲覧、感想文の提出を求め、各自の認識を年に一度は確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添い、一人ひとりの発言や行動から、『何を求めているか』を把握するようにし、些細な事も本人が自己決定できるように、声かけを工夫し見守っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、その時々利用者の気持ちや状態に合わせて時間調整するなどし、安心した生活が出来る様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの美容室で、毛染めやパーマをしてもらったり、起床時には整髪、整容に気を配るようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや、片付けなど出来ることをしてもらえようサポートしている。また職員も同じテーブルで食事し、味つけや量などを聞いたり、話をしながら楽しく食事が出来るように配慮している	隣接するケアハウスのメニューを参考に、職員が献立を考えている。調理の下ごしらえや、テーブル拭きなどは利用者と一緒にしている。菜園で採れた野菜を食材とする楽しみもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分量を記録し、食事がすすまない方には、形状を工夫したり、好きな物・食べ易いものを用意し、栄養ドリンクや栄養補助食品も使用している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方については、毎食後声かけし、見守りを行なっている。出来ない方については、職員が介助している		

グループホームあかいわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の状況に合わせて、リハビリパンツや尿取りパットを使用している。また、『さわやかチェック表』を用いて、個々の排泄パターンに応じた声かけや介助をしている	過剰介護で、排泄の失敗を完全回避するのではなく、ある程度失敗した感触を感じてもらい、トイレ排泄への意志につなげている。その結果、布パンツや、リハビリパンツ使用者が多い。敏感肌の人が多いので、蒸れない工夫を積極的に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に薬に頼らず、個別に排泄管理をしている。ヨーグルト、プルーン、牛乳、野菜ジュースを食していただく事で自然排便に繋がるよう工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、入浴は15時頃から夕食前までとしているが、いつでも本人の希望に添えるようにしている。また状態により、清拭、部分浴等の対応もしている	基本的に週2、3回の入浴だが、毎日や夕食前など、できるだけ利用者の希望に添えるよう努力している。入浴前には、全身を確認し、必要に応じて爪切りや耳そうじをしている。状態に合わせ、足浴やシャワーの場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や、散歩、水遣り等で、日中の活動を促すと共に、一人ひとりの体調や要望に合わせて、昼食後は居室での休息を勧めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬利用表を作成し、薬の目的や効果が理解出来るようにし、定期薬と臨時薬の区別が、職員が一目で解るようにしている。又、服薬時は必ず職員が2名体制で確認し本人に手渡し、利用者が安全に服用するまで見守りを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の下ごしらえ(皮むき、カット、根取り等)や洗い物、裁縫(雑巾縫い)や洗濯物のシワ伸ばしなど、一人ひとりの得意分野で力を発揮していただけるよう、声かけ・見守りを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、施設周辺や、敷地内を散歩したり、中庭で外気浴をしたり、テラスでお茶を飲んだりしている。又、近くのスーパーに食材等の買物と一緒に出かけている	事業所の敷地内を散歩したり、中庭で日向ぼっこをしたり、昼食をとったりするなど、日常的に戸外で過ごしている。隣接するケアハウスでの行事に参加するなど、雰囲気を変えて、気分転換できるよう工夫している。	

グループホームあかいわ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、契約時の『預かり金制度』により、家族への承認・確認のもと職員が行なっているが、買物に行った時には、本人に支払いをしてもらうように声かけ、見守り支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、家族等に電話を掛けてもらっている。また、難聴等の理由により要望が上手く伝えられない利用者には、職員が利用者に替わって家族に伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシー保護等に使用している衝立に、歌や塗り絵をさりげなく掲示したり、掲示板には季節に応じた壁面飾りを施したり、手作りカレンダーの日付けを利用者に変えてもらっています。また、入浴時の脱衣所・風呂場内の温度は常に快適な温度設定を心掛けている	利用者の作品、四季の花や職員手作りの壁面装飾と一緒に飾り付け、季節感や温かみのある空間をつくっている。温度湿度は、体感で床暖房をつけたり、加湿湿して調整している。毎日の掃除機がけ、モップ清掃に加え、11～3月の間は感染症予防対策として、消毒を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ニヶ所にソファを置き、畳のフロアもあり、食卓でもどこでも、個々の気分や状況に応じて過ごしてもらうことが出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具は自宅で使用されていたものを持ってきていただくようにし、居室を写真や思い出の品で飾り、個人のスペースとしてリラックスして生活していただけるように家族にも協力を依頼している	備え付けのクローゼットとベッド以外は、タンスや椅子など使い慣れたものを持ち込み、落ち着いて生活できるよう家具の設置や装飾などで演出している。毎朝、床や洗面台を清掃し、窓を開けて換気をしている。洗面台の水は、利用者の好みに合わせて快適に使えるように、温度を調整している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、『便所』と大きく書いた紙を貼り、居室入り口には名前を大きく掲示し、他の利用者が部屋を間違えたり、自分の部屋が解らないなどの混乱を防ぐようにしている		